

## 令和 5 年度第 1 回茅野市DX推進協議会 会議録

日時 令和 5 年 6 月 14 日(水)18 時 00 分～

会場 茅野市役所 7 階 702 会議室

### 1 開会

### 2 令和 5 年度の市の DX 推進体制について

ー令和 5 年度の市の DX 推進体制について事務局説明ー

- ・今年度から DX 推進課として組織改編され、地域 DX 推進係と自治体デジタル係の 2 係体制となった。
- ・諏訪中央病院の須田医師が DX 推進幹から DX 企画幹へと役職が変わり、引き続き企画立案と、関係者との連携を中心的に担っていただいている。
- ・内閣府の DX 地域活性化チーム派遣実証調査事業で紹介いただいた今 藤彦(こん ふじひこ)氏に、CDO 補佐官として行政の立場でデジタル関係の支援をいただいている。

### 3 協議事項

#### (1) 構成員の交代及び役員の選任について 名簿、規約

ー構成員の交代について事務局説明ー

- ・公立諏訪東京理科大学の北原理事長から、濱田 州博学長に構成員を交代。
- ・茅野市金融団幹事行の交代に伴い、諏訪信用金庫の小泉支店長から長野県信用組合の徳武 宏治茅野支店長に構成員を交代した。
- ・それでは濱田様、徳竹様より一言ずつご挨拶を頂戴する。

#### ○公立諏訪東京理科大学 濱田学長

なにぶんまだ3月に引っ越してきたばかりなので、茅野市を知るところから始めているところ。どのような DX がこの地域にあっているかを、皆さんと協議しながら進めていきたい。

#### ○茅野市金融団 徳武幹事行代表

DX について色々な企業が考え始めている。何から取り組むのが良いのかお話いただくが、IT 人材が企業の中にいないとか、何にどのぐらい費用がかかるかなど、まだ細かいところまでは至っていないのが現状であるかと思う。今回、茅野市 DX 推進協議会に参加させていただくこととなったが、色々勉強させていただき、茅野市の企業が元気になれるように提案できたらと思っている。

－役員を選任について事務局説明－

本協議会の会長職を担っていた公立諏訪東京理科大学の北原理事長の退任に伴い、新たに会長を選任する必要がある。本協議会規約第5条第2項の規定により、会長職については構成員による互選としたいが、どなたかこの会長職の選任についてご意見はあるか。

○茅野市 熊谷地域創生政策監

引き続き公立諏訪東京理科大学より濱田学長にお願いしたい。

○事務局

濱田学長に会長職をという提案だが、皆様いかがか。

－意見なし－

○事務局

ご賛同いただける方は拍手をもってご承認いただきたい。

(拍手)

○事務局

それでは、公立諏訪東京理科大学の濱田学長に会長職をお願いする。濱田会長から会長就任のご挨拶を頂戴する。

○濱田会長

微力ながら会長を務めさせていただく。先ほど申し上げたとおり DX の一般的な定義は非常に難しく、それぞれの企業なり、それぞれの団体なりでどのように DX を進めるかは異なる。茅野市は茅野市でできるところから取り組んでいくのが良いのではないかと。日本における失敗例を見ていると、すべてを一度に変えようとして失敗しているケースが多く見受けられる。茅野市として、まずはここから進めていくというターゲットが、去年の議論の中である程度決まっているかと思しますので、まずはそこを前に進めていければと思っている。

－議事進行を濱田会長に交代－

(2) 茅野市 DX 基本計画の策定について 資料1

－茅野市 DX 基本計画の策定について事務局から説明－

・2024 年から 2026 年を第 1 期計画期間、2027 年から 2029 年を第二期計画期間とし、第 1 期計画期間は、まず DX を身近なものにしていただく取組を進めていきたい。

・取組の中心は、昨年デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用し取り組んだデジタル田園健康特区形成事業で構築した事業だが、市と市民との双方向コミュニケーションの推進や、本協議会・DX 外部評価委員会で協議し、実施が決定した事業についても検討したい。

#### ○濱田会長

生活に身近なところから取り組んでいくという説明をいただいた。私も2拠点居住者であるが、一番よく使っているのは中部電力が取り組んでいるスマートメーター。今はほぼ茅野市にいますが、上田の家の電気が変に動いてないかどうか、1時間ごとに見ることができる。そうすると変な人が家に入っていないかどうか分かる。DX が様々な形で進んでくると、生活が便利になってくるのではないか。そのような生活に身近なところから進めていくのが良いのではないかと考えている。

#### 4 報告事項

##### (1) デジタル田園健康特区の進捗状況について 資料2

ーデジタル田園健康特区の進捗状況について事務局から説明ー

1. 指定訪問看護事業所にストック可能な薬剤等の対象拡大については、国での協議状況を見ながら、ヘルスケアワーキングにおいて、地域の関係事業者とともに協議を重ねている。進捗があり次第ご連絡申し上げる。
2. 医薬品等の効率的配送【貨客混載】については、6月9日の長野日報で取り上げていただいたとおり全国的に規制が緩和された。実施に向けて関係事業者との協議を進めている。
3. 新たな規制緩和提案の検討については、現在岡山市の総合特区で実施中の事業を国からご紹介いただいた。検討に着手したところであり、今後進捗状況をご報告させていただきます。

##### (2) 内閣府 調査事業の公募開始について 資料3

ー内閣府 調査事業の公募開始について事務局から説明ー

デジタル田園健康特区、スーパーシティの5自治体を対象として、民間事業者や大学に事業展開いただくもの。先日公募が締め切られたところであり、事業者の選定がなされたらご報告させていただきます。

##### (3) 茅野市 DX 外部評価委員会の協議状況について 資料4

ー茅野市 DX 外部評価委員会の協議状況について事務局から説明ー

外部評価委員会では、これまで4回の会議を開催し、価値観のすり合わせを行っている。今後の状況についてご報告させていただきます。

## ○濱田会長

外部評価委員会では、市民目線、住んでいる方の目線で話をされている。一方、例えば企業の目線がもっとあったほうが良いのでは、などご意見あるかと思うが、いかがか。

## ○茅野市 熊谷地域創生政策監

ポイントを解説させていただく。今後、外部評価委員会では、市民の様々なニーズや提案を吸い上げ、それらに対し、これとこれは一緒に課題解決できるのではとか、このような法の規制緩和で対応できないか、という整理を進め、協議会に提案される予定。今ワークショップで取り組んでいるのは、幸せとはどのようなものかということではなく、社会全体の幸せや、それぞれの幸せをどのように実現していくのか、これから出てくる提案をどのように料理していくのかを勉強している。協議会においては、外部評価委員会からの提案を受け、例えば、コミュニティの問題が非常に厳しい課題であるとか、高齢者対策をやるべきとか、子どもの見守りが必要だ、という形で、順位付けをやっていくことになる。資料1の補足をご覧くださいと、横軸には向かって左から右に課題の順番で並べることを想定しており、縦軸には、コミュニケーション、交通、防災、医療など、社会としてどのような機能を果たしていくのかという機能を並べることを想定している。また、課題が多く寄せられるところは色付けをする見込みであり、順位付けの判断基準としていただいてはどうかと想定している。また、この調査業務だが、去年は国のデジタル田園都市国家構想推進交付金というお金を使って、約4億円かけて茅野市に都市OSを導入した。自治体負担は10分の1だったので、4,000万くらいだが、ランニングコストが毎年4,000万円ほどかかることになる。しかし、都市OSは作ったが、そこに紐づくサービスを作りましょうということを、我々は今年度選択しなかった。今年度は、企業主導で茅野市のこの都市OSを利用したサービス導入を促している。例えば、先ほど貨客混載の規制緩和が全国展開になったということで申し上げたが、単に規制が緩和されたからといって、すぐ実施できるものではない。例えばタクシーが薬や雑誌を一人暮らしの老人のところに届けるとなった場合に、きちんとその人に届いたかどうかを確認しないといけない。また、タクシーが運ぶときに薬の温度管理をするなど、品質を担保しないといけない。また、薬代の徴収の仕方を考えなければいけない。というように、実は規制緩和しても、検討しなければならないことは多々ある。そこに対し、茅野市のために研究したいと言ってくれる企業がある。茅野市が特区に選ばれた結果、そのような企業が出てきている。例えば今申し上げたような貨客混載や、二次交通の面では、将来のラストワンマイル、例えば別荘の中を移動するシニアカーの速度の規制緩和をやろうとしている。そのように、今年度は市のお金を使わずして、民間企業の力を借りてやろうとしている。次のステップとしては、先日会議所にお伺いして、いわゆる日々の業務の中で支障になるような規制はないか、ということで意見交換を始めた。私どもは国家戦略特区に選ばれたが、先ほどの岡山市の総合特区のように、他の地域で活用している規制緩和も活用できるようになる。とりあえず会議所と共同で研究を進めていこうかと考えている。今後、大学や医療、福祉の世界などで、今まで他の地域で活用し

ている規制緩和が活用できるかということもこれから研究はしていけないといけないと考えている。

#### ○濱田会長

先日、県議会議員の選挙があったが、ちょうど上田市から茅野市に引っ越しをしたタイミングだった。同一県内での引っ越しだと実は転出前の住所地で投票ができる。ところが、そのためには、茅野市役所で「引き続き証明」という、引き続き県内に住んでいるという証明書が必要になる。おそらく市役所の人もそんなことを言う人があまりいないので、マニュアルを見ながら30分ぐらいかけてそれを作っていた。市役所の職員も大変だし、私も30分待っている。その後、上田市にそれを持っていった際に、これを持ってきて投票する人はいるのかと聞いたら、たまにいますと言いながら、これもらってもよいか、上田市の職員が証明書ももらっていった。おそらくめったに見たことがないからではないかと思う。私が思ったのは、マイナンバーカードを活用することで、新旧の住所簡単にわかるので、それを活用すればお互い手間なく手続きができるのではないかということ。国も選挙が民主主義の1丁目1番地だというのなら、そこから始めた方が良いのではないか。そのようにできることが、身近にあるのではとそれを見て感じた。

#### ○寺澤副会長

先ほどの話にあった都市OSとは何か。

#### ○事務局

まず、OSというとオペレーティングシステム。パソコンで言えば、OSがあることで、例えばハードウェアの性能やメーカーが違って、ワードやエクセルが利用でき、データも共用化して使えるように、同じアプリケーションが使えたり、データが連携できるようになる。それが都市OSではどうなるかと言うと、長野県には77自治体あり、大きな自治体から小さい自治体まで様々。これまで、ITの世界では都市ごとにシステムの開発をしたため、全く互換性がなく、茅野市で作ったものは、松本市では使えず、データも連携できないという状態。そこで、この都市OSのような共通のオペレーティングシステムを入れることによって、茅野市で開発したアプリケーションがそのOSを介してどこの地域でも使えるようになり、また、データ連携も都市間でできるという姿を目指している。また、サービスとしては、その個人の属性情報に応じた情報を届けることができる環境も整備している。例えば私であれば、A区に住んでいるのでA区の情報だけをこの人に届けようとか、デジタルを活用することで、そのようなことも手軽に行えるようになる。

#### ○茅野市 熊谷地域創生政策監

都市OSによって、例えば住民票であれば、名前、生年月日、住所があり、データがレコー

ドで並んでいる。病院であれば病院ごとにカルテの番号や名前、病状等が繋がっている。ただ、同じカルテだと言っても A 社のカルテと B 社のカルテに互換性がなく、仮に同じ人の情報であっても連携することができない。ただ、これからは都市 OS を介して、それぞれのシステムで持っている名前や年齢、住所などのデータが置いて場所に情報を読みに行くことが可能になる。それによって、「のらぎあ」に乗って病院に行き、その後薬を届けてもらうとなった時に、それぞれのシステムで登録しているデータはバラバラだが、病院に行き、帰りに貨客混載で家に薬を届けてもらうということが都市 OS でデータを連携することで可能になる。

#### ○事務局

都市 OS そのものはサービスではない。都市 OS はサービス同士を連携するためのシステムであり、都市 OS を通じて色々なサービスを繋げていくことができるのが一番大きな役割。今は、例えば「のらぎあ」を利用するために名前やメールアドレスなどを登録しなければいけないし、電子決済を利用する際も、銀行に口座を作る際も名前や住所を登録しなければいけない。1 個 1 個のサービスに対し自分の情報を登録する必要があり、さらに、それぞれのサービスで登録した情報はサービス間でやりとりできない。それを繋いでくれるのが都市 OS。その都市の ID とパスワードを 1 個持てば、複数のサービスそれぞれで登録の手続きを必要とせず全てのサービスを利用できるようになる。例えば、交通のサービスで電子決済をしたいとなったときにも、都市 OS に登録している ID や情報を通じて、一つひとつのサービスに登録せずに交通のサービスから利用できるようになる。そのため、色々なサービスを導入する前に都市 OS を整備して、都市 OS とそれぞれのサービスを連携すればいいように整えましょうということを国が推進しようとしている。元々はスペインのバルセロナにおいて都市 OS を活用したまちづくりが先進的に進められている。まちの基幹システムを一つひとつ異なる企業に発注が、システム同士が全然連携できなくなり、これでは駄目だということですので 1 つのシステムのもと連携できるようにというコンセプトで構築したと聞いている。

#### ○事務局

都市 OS はいわゆる ID 連携基盤という言い方をよくされる。私たちは普段色々なサービスや色々なシステムを使っていると思う。例えば宅配便の受付システムや病院の受付システムなど、色々なシステムがある。ただ、それぞれのシステムを使おうと思った時に、基本的には最初に登録する必要しなければならない。例えば使いたいシステムが 10 個あったら 10 回自分の情報を登録しなければならない。非常に面倒。そこで、この都市 OS を通じて、1 回登録するだけで、それぞれのサービスが利用できるようになる。また、単に登録が楽になるというだけではなく、サービス同士のデータが繋がることも大きなメリット。例えば病院で受付をしたという情報とタクシーの配車情報が連携すると、病院で診察を受け、終了後にタクシーを配車するということが、都市 OS を仲介して病院システムと各種システムが繋がることによってデータ同士の連携で実現できるようになる。それによって最も利益を受けるのは市民。それ

ぞれの ID が都市 OS を通じ、サービス同士が繋がり連携することによって、多くの分野で利便性が向上していく。そういったサービスを提供していける基盤がまずできた。これからどんなアプリやサービスをつなぐかというのは、これから議論していくところ。

#### ○濱田会長

これは大学でよくある話だが、大学の業績評価は、調査様式が異なるため、その都度情報を入れる必要がある。大学で不満を聞くと毎回会議で話題になるのは、同じ様式にしてほしいということ。おそらく大学教員が最も不平を言うところだが、データ連携ができるとそれぞれの様式が違って、情報を 1 回打ち込んだだけで良くなり、便利になるのではないかと期待している。

#### ○事務局

先ほど申し上げたとおり、昨年、様々な仕組みをつなげる都市 OS という基盤を導入させていただいた。これは、道路で言うと道路敷、レールを作ったようなイメージ。様々なサービスを導入する素地ができた。そのプラットフォームや、そこに紐づくアプリケーションの構築など、仕組み全体を作るのに 4 億円使わせていただいた。都市 OS 単体で 4 億円という金額がかかっているわけではないとご理解いただきたい。では、そのレールの上をどのような列車を走らせましょう。どこに向けて走らせましょうというのが、まさに最初話があった計画の中で明らかにしていきたいと考えており、今後ご相談させていただきたい。

#### ○茅野商工会議所 守屋専務理事

本日は今後の進め方や、スケジュール感についてのお話をいただいた。これはどちらかと言えば、行政サービスや、市の仕事の効率化に向けた DX が中心だったかと感じている。一方、我々としては、各企業がそれぞれに進めていく DX の取組の連携はどのように考えているのか。例えば、市が都市 OS を導入し、良い取組につながるようであれば企業に展開していくなど、そういう形も考えていただきたい。単に行政サービス向上のためではもったいないのではないかと。

## 5 その他

－次回会議日程について事務局から説明－

次回会議は、8月開催を予定。日時や会場については決まり次第、ご連絡させていただく。続いて、今月の医師会で諏訪郡医師会長が交代となる。そのため、本協議会の構成員である細田副会長はこの会議が最後になる。細田副会長から一言ご挨拶をいただきたい。

#### ○細田副会長

この DX に関わるようになった最初のきっかけは 2021 年だったと記憶している。須田先

生から茅野市がスーパーシティ構想に提案するというお話をいただいたのがきっかけ。最初、スーパーシティとはなんだろうと。空飛ぶ車が茅野市でも飛ぶのかなとイメージしていたが、よく話を聞いてみると医療に関する健康特区に応募し、茅野市がそのような方向に進んでいきたいというお話だった。健康特区であり、医療や福祉に関わる問題の中で医師会は特に重要な役割になるのということで参加させていただくことになった。医療の世界ではデジタル化が特に遅れているということを世間ではよく言われるが、個々の医療機関では、かなりデジタル化が進んでいる。医療機器一つとっても、今はもうデジタルのない医療機関はなく、AIまで入っている状況。ただ、先ほどから話の出ている情報の共有、連携、これはもう遅れているとしか言いようがない。今マイナンバーカードを使って色々な情報を共有化しようという、政府の施策がかなり進んできている。当然ながら拙速に進めていこうとすると当然無理が出てくる。今、生じている問題はその最たるものかなと思っている。先ほども市民の方から待ち時間が長いとか、様々な課題をあげられていたが、医療はやはりコストとマンパワーがかかる。どこの医療機関でも待ち時間の短縮は命題になっており、いかに患者を待たせずに診療するかが議論されている。ただ、例えば効率化を進めていくと、逆にその患者1人に費やす時間が短くなり、1分診療ということにもなりかねない。なかなか解決するのは難しい課題ではある。色々な施設で知恵を絞り、なるべく患者を待たせない工夫を考えている。それももちろんデジタルやITを駆使して解決しようとしているが、あるところまでは限界があるのではと思っている。国がデジタル化によって効率化を進めるというのは非常によいと思うが、やはり一番大きな問題は医療情報や健康情報は究極のプライバシー。それをいかに保護しながら、DXによって連携していくかというところは非常に難しい問題であると感じている。課題が非常に多く我々も日々頭を悩ませながら取り組んでいるところ。茅野市で、できることからDXで課題を解決していくというのは本当に賛同でき、ぜひこれからも進めていただきたい。先ほど申し上げたとおり、私はここで諏訪郡医師会長の職を退任することになり、後任の会長がこの協議会に入ってくると思うが、引き続きよろしくお願ひしたい。

## 6 閉会